

山のシュレー2009

七／三〇(木)〜八／三(月)まで開催!

「アート・フェスタ那須」の参加プログラム「山のシュレー」が、7/30(木)〜8/3(月)まで五日間開催されます。各界でご活躍の方々が、那須山麓横沢の地を訪れ、二期倶楽部協力の下で行われます。今年のテーマは「言葉・身体・環境」。初日はオープニング記念としてシンポジウムがあります。20世紀前衛芸術家オスカー・シュレンマーの孫であるラマン・シュレンマー氏を迎え、「基調講演」。続いて伊藤俊治氏(東京芸術大学教授)のガイドにより、佐治晴夫氏(宇宙物理学者)、茂木健一郎氏(脳科学者)、竹村真一氏(文化人類学者)の豪華出演者によるグラウンド対談を予定しています。個々の生命が、宇宙空間に、いかに結びついているかを、それぞれの専門から紐解いていきます。2日目からは

「伊東豊雄氏、佐治晴夫氏、竹村真一氏、新見隆氏、能勢伊勢雄氏、原研哉氏」の90分講座。「能楽師・安田登氏の身体ワークショップ」「内田一成氏の木登り体験ツリーイング」「小松誠氏の陶器ワークショップ」「AIR2009プログラム作家・金恵貞氏のワークショップ」「高橋禎彦氏のガラスワークショップ」などを通して、地球環境、身体と言葉との関わりについて考え、テーマを深めていきます。さらに、二期倶楽部ホールでは那須で活躍中の作家展。アート・ビオトープ庭内のリムジン屋台をはじめ、地元の商材を集めた市もたちます。夏の5日間。学びと創造の場がこの地に現れ、子供から大人まで、人と人が繋がり、未来を考え、ていく足がかりとなることを願って開催されます。

「山のシュレー2009」オープニング記念シンポジウム

2009年7月30日(木) *プログラムは、一部変更になる場合があります。
参加費：20,000円(全部)/15,000円(I, II部のみ)/10,000円(III部のみ)

司会 新見隆氏(武蔵野美術大学芸術文化学科教授)

■第一部：12:00~13:30

基調講演 ラマン・シュレンマー氏

「シュレンマーと、パウハウス、アスコーナ—20世紀の身体と、舞台芸術の革命、そして、共同体学びの場の実践を語る」

■休憩：13:30~14:00

ティーサービス

■第二部：14:00~16:30

グラウンド対談「手と心と声と宇宙と—コスモスの復権—」

伊藤 俊治氏(東京芸術大学美術学部先端芸術表現科教授)
佐治 晴夫氏(宇宙物理学者/鈴鹿短期大学学長)
竹村 真一氏(文化人類学者/京都造形芸術大学教授)
茂木 健一郎氏(脳科学者)

■第三部：18:30~

世界初演「結婚」映像視聴会(軽食付き)

20世紀前衛舞台芸術のパイオニア、オスカー・シュレンマーの影絵芝居
特別出演— 安田登氏(能楽師)

手と心と声と宇宙と—コスモスの復権—

1959年、C.P.スノーは「二つの文化と科学革命」で、文系と理系の文化の対立が文化のみならず社会の進歩を阻害していると指摘しました。それから半世紀、文化の対立はより深刻になり、知は繋がることのないままです。この対立の大きな要因は、文化の総体が共有するコスモロジーを見失ってしまったからなのではないでしょうか。文化がコスモスを持っていない。そのため宇宙が人に働きかけ、人が宇宙に働きかける相互領域が失われてしまっている。このコスモスを復権させることは私たちの時代に課せられた最重要問題なのかもしれません。コスモスをどのように感知し、認識し、回復してゆくの。この場では多くの先駆的な試みをモデルにその具体的な方法を探ってゆきたいと思えます。

例えば私たちの手に、心に、声に

宇宙は宿っているでしょうか。手と心と声はバラバラに存在するものではないかもしれません。それらは共通するコスモスに浸透されています。このコスモスがなければ私たちは生きる術を忘れ、母体を失い、さ迷い続けるだけになってしまおうでしょう。手は宇宙と繋がっています。心は宇宙と交感しています。声は宇宙に開かれています。そして手と心と声がつくりだすアートは宇宙を呼び寄せる媒体なのです。

分断され、孤立し、生や宇宙との関係を失っていった芸術概念の新たな統合を目指した運動体パウハウス、その中心人物の一人オスカー・シュレンマーはパウハウス全体を宇

宙とみなし、人間の身体が物質的な空間ばかりではなく宇宙そのものと結びついていることをダンスで示そうとしました。そして人間学という総合授業で、宇宙的存在としての人間の新たなヴィジョンを提示しています。またナチスの迫害とともにアメリカに亡命したパウハウスの人々はノースカロライナにブラックマウンテンカレッジ、シカゴにニューバウハウスという学びと創造の場をつくり、ジョン・ケージやマーサ・カニンガムらによる音楽、演劇、舞踏のトータルな芸術表現の実験、バックミンスター・フラーやチャールズ・モリスらによる生物学、人類学、自然科学をテーマとした知的統合プロジェクトの実践、社会環境や地球の危機と個人の課題に立ち向かう能力について様々な角度から提言を行っています。

宇宙を内面化する都市デザインや生態建築を志向したパオロ・ソレリら20世紀の重要人物に多大な影響を与えたティヤール・ド・シャルダンは、宇宙は生成過程にあるものとみなし、物質、生命、人間、精神はこの生成プロセスのなかで緊密に結び付き、宇宙全体の進行と関係を持つ複合運動を絶え間なく繰り返していると言いました。

精神は物質を必要とし、精神が現れるためには物質の精密な組み合わせが不可欠であり、精神の進化にはさらに複雑な物質の組み合わせが前提となります。

そしてこの精神と物質を媒介する生命とは宇宙の絶え間ない運動の

現れに他ならないのです。宇宙は微少世界の量子性、巨大世界の相対性とともに、深遠な複雑性の上にも生長して、この宇宙の複雑性が具体化されたものが生命なのです。それゆえ生命は宇宙生成と連続線上にあり、宇宙の根源的な流れである複合化の波に揺れているのです。複雑性を増し、ついには内面性を生み出すに至るダイナミックな宇宙像、人間と宇宙と生命をトータルに捉えるアプローチがそこにはあります。21世紀に生きる私たちはこのような宇宙像を新たな形で組直してゆく必要に迫られているのではないのでしょうか。自己と宇宙を共振させる新しい象徴作用が求められています。このパネルディスカッションでは人間の身体と自然宇宙の関係を洗い直し、新たな手と心と声を取り戻す可能性を探ってゆきます。

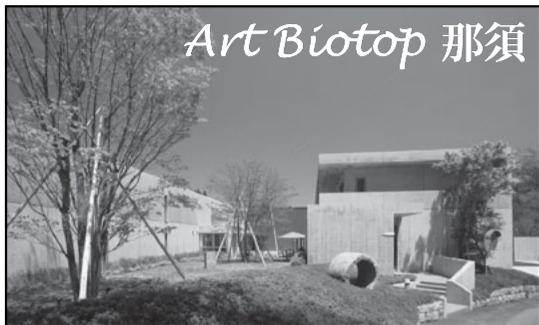
伊藤俊治「いとうとしはる」
東京芸術大学美術学部先端芸術表現科教授

二期倶楽部庭内観季館BAR

「BARラジオ —尾崎浩司の時—」

7/30(木)~8/2(日)期間限定オープン
21:00~24:00 *BAR営業は18:00より

70年代の東京・神宮前にあったBARラジオ。多くのクリエイター、文化人が集いました。現在、観季館のバーに若林奮制作のカウンターが移築され、当時の面影が再現されています。「山のシュレー2009」期間中の夜、往時の名パーテナー尾崎浩司氏がカウンターに立ちます。またとない、格別な那須の夜となることでしょう。



Art Biotop 那須

栃木県那須郡那須町高久乙道上2294-3
Tel : 0287-78-7833 Fax : 0287-78-6627
HP://www.artbiotop.jp/ E-mail:artbiotop@nikiresort.jp

2009年度AIRプログラム「金恵貞ワークショップ」

「求心力の旅—五感で描く」

日時：8月2日(日)・3日(月)各日10:30~
場所：アート・ビオトープ那須陶芸スタジオ
内容：五感を開き、まっすぐな眼差しでモノの中心に近づくドローイング
対象：中学生以上 定員：15名
参加費：無料 材料費：3,000円
*汚れてもよい服装でご来場ください。

お問い合わせ、お申込みは
アート・ビオトープ那須 **0287-78-7833**

小松誠さんへ

ワークショップ便り

小池領子

まず私は土を前にして考えました。二日間で作成できる造形の可能性を。土はゆるやかに硬くとも成形不可、快い土は手の中で自由で…心に閃きがあれば形は自在の想いのまま…。そんな喜びを伝えたい…がしかし、作陶は大半が泥まみれの労働…至福の創作の時はほんのわずか…。窯でよく焼けると限らないことも知ってほしい。幸にも晴れた朝、設備の整ったアトリエで(やりわり細かい所まで行き届く)安藤さん、テキパキ企画の森山さん等のサポートのもと、ワークショップは始まりました。いよいよ私作の時間となると十八名の方々、集中沈黙の中、手はぐいぐいと動き、スタート時は同じだった半球形の上部に、各自思い思いの形をプラスして個性ゆたかバラエティにとんだ白い形が出来上がっていきます。樂しさがアトリエに満ちていてすばらしい光景。…全員見事に作品は

完成しました。日々、ご自身を生活して、しっかり生活していられる方々の内に秘めたる、ユーモア造形力、つくづく感じ入りました。後半の大仕事！施釉・窯焚き等は安藤さん一人の肩にのしかかります。おお大変。私は全作品の成功を確信しています。

二日間のあのおだやかな楽しさは那須の自然の中、二期倶楽部のすてきなセンス、細部までゆき届いた人の心と物。本物の食材、くつろぎの居住空間にあるのだと気がつきます。一生懸命仕事した後、ゆっくり又行きたいと思ってしまう。

光の孤独

— シューベルトの庭で

武蔵野の面影の残る、サナトリウムの雑木林のほとりに住んでいる。通りをへだてたとなりの療養所のなか、樺の大木がしげる納骨堂のそばの茂みに小さな庭がある。いちめんに散った金木犀のオレンジ色の花びらに誘われて、つつじの生垣で柔らかに区切られた小庭のような空間に光りが差し込む。樹木の祠というか、樺と銀杏が密生しているところで、ゆるやかに広がるある結界のようなものを感じさせる場所だ。清冽な秋の気配がたまたま朝、光りが影をともなって訪れる小空間は、小さな、誰のものでもない墓所のような感じがする。

無限の感興を誘うこの小庭を、私はシューベルトの庭と呼んでいる。シューベルトはその死の年に三曲のピアノ・ソナタを残しているが、いずれもこの世のものとは思えない、不思議な美しさをたたえた傑作で、この庭はさしずめハ短調の庭だろうか。死の影に寄り添いながら、それを親密な友として語りかける歌

は、軽やかな、光の野を走り去る音の流れによって、生への愛惜を、また香らせる。納骨堂をうっそうとおおう高木の梢から光がさしこむと、ぽっかりと浮かびあがるこの庭の空間色が、時には頼りなげで、それでいてけっして歌うことを忘れない、シューベルトの人間らしさにふさわしい。シューベルトの音楽は雑多なもの、猥雑なものを切り捨て、とり除いて、自らを純化するうちにできあがったものではない。悲痛な叫びと軽やかな歌声がふたつながら、日々の生活に寄り添うように息づいて

いる。ここに来れば、自然が、彼らなりの日々を持って、身の丈の日常を巡っているのがわかる。独特の気配が醸成されて、静かで明るい、淋しみの支配する庭だ。自然こそは、私ども人間の生の、もうひとつの影なのか。

光の孤独。

何かが終わったところで、いや終わりながらもすでに始まっているような、私どものすくすく息づいて

いながら、容易に肉の眼で見ることができない、果てのない硬い空間を、シューベルトの白目の眼差がとらえている。ウィーン郊外の森を冬に歩くと、細かな石のつづてが風に舞って、身体に弾ける。その感触でシューベルトがわかったと、長くヨーロッパにいた、年長の友人である建築家が話してくれた。いろんなことを教えてくれて、大好きだった彼も、囁きながら早世して、いまはいない。

シューベルトの庭は、日日の間がかたちを刻む庭である。明るい、足速に通りまするもの。未知の予徴に充ちた鳥の飛びたつさま。風の声。雨の匂い。これらの気配や感情の、すべての集まりこそが自分自身であることを知る者の悦しみが、支配する場。それが私の愛する、シューベルトの庭である。

(註) シューベルトの彼の音楽についてはケンパの弾いたCDのライナー・ノートの石井宏さんの解説から、学んで借りた(インターネット・ミュージアムショップ Arts and Crafts Cica Cica 掲載された記事を再構成したもの)

新見隆「いみじゅう」
武蔵野美術大学芸術文化学科教授、アート・ビオトープ那須、ギャラリー冊、顧問・キュレーター

ササゲ (忘れられた作物)

「そう言えばあったなあ」とササゲが過去の作物となった今、ササゲを知る人は少なくなりました。アズキによく似た豆です。島の古者は「ササギ」とも言う。古書にも「佐々義」と散見される。暖地で雨が少なく小豆の稔りが悪い小豆島では、古来、ササゲを作ってアズキの代用にして来ました。

梅雨の雨でサツマイモを植えて程なく、その畝肩にササゲを播きます。豆の仲間は肥料を奪う事も少なく、ササゲは畝を借りる形で混植され、焼け付く盛夏の畑でイモに日傘の役もしています。イモの肥る秋にはササゲは既に収穫されています。これは正に伝承農法であって、混植の効果を生かし、減収をおさえるため、イモ畑にあるササゲの密度は絶妙でありました。ササゲの故郷はアフリカです。品種を生みながら何処をどう旅して我が国に辿り着いたのであろうか。昔、農家はお祝いには赤いササゲを、お弔いには白いササゲ(奴ササゲ)を届けたものである。(白いほうは見なくなって久しい)

西光寺の門前に春の大師市の立つ日、近くの種屋さんでササゲの種を見つけました。使い古された浅い木箱に薄く広げられて日差しを浴びていました。計り売り専用の小さな柄杓ですくって、簡素な種袋に入れて下さった。実に素朴なその売り方まで嬉しかった。

八代田 素樹 [やしろだもとき]
小豆島・瀨崎在住

2009年度AIRプログラム 稲垣有里ワークショップ

共催：アート・ビオトープ小豆島、オリヴ生活文化研究所
後援：土庄町 協賛：小豆島ヘルシーランド株式会社
「オリブで染める！」
日時：2009年8月9日(日)10:00~15:00
場所：木香「オリブの森west」内
内容：小豆島産「オリブの葉」を用いて、染物をする
対象：小学生以上(親子参加歓迎します)
参加費：無料 材料費：300円
*染めたいもの(素材：ハンカチ、タオル、Tシャツなど白地、無地の物)を持参ください。
*汚れてもよい服でご来場ください。 *お弁当、飲み物。

お問い合わせ、お申し込み：
アート・ビオトープ小豆島 **0879-62-3445**

アート・ビオトープ主催

「2010年度AIRプログラム」募集中

只今、AB那須は「陶芸、ガラス」作家、AB小豆島では「石彫、オリブ染色」作家滞在制作プログラムの応募申込受付中です。詳細は、HPをご覧ください。2010年夏、小豆島では「せとうち国際芸術祭」「石博」が開催されます。たくさんのご応募をお待ちしています。

お問い合わせはe-mailまたは**0287-78-7833**
URL://www.artbiotop.jp e-mail: residence@artbiotop.jp

■お知らせ

前号で紹介しました、AB小豆島において6~8月まで予定された2009年度AIRプログラム『プロマ・プロジェクト/キース・ブッケン氏(オランダ)、相原正美氏(北海道)、小松稔氏(東京)』は、作家の都合で参加中止になりました。ご了承ください。

サマー・オープン・カレッジ
7/30 (木) ~ 8/3 (月)

山のシュール2009「言葉・身体・環境」

LECTURE 講座

観季館小ホール 各4,000円

■7/31 (金) 14:30~16:00

「宇宙とともに、21世紀を考える」

佐治 晴夫 (宇宙物理学者・鈴鹿短期大学学長)

■7/31 (金) 17:00~18:30

「地球の魔法

—この惑星で、どんなに奇跡的なことが起きているのか?—

竹村 真一 (文化人類学者・京都造形芸術大学教授)

■8/1 (土) 11:00~12:30

「SENSEWARE — 感覚の世界地図を拓げる」

原 研哉 (グラフィックデザイナー)

■8/1 (土) 14:30~16:00

「身体のような建築」

伊東 豊雄 (建築家)

■8/1 (土) 17:00~18:30

「20世紀ヨーロッパ、
芸術家コロニーの源泉を辿る旅

—アブラムツォヴォ、ヴォルプスベード、ドルナツハ、
アスコーナ、ワイマール、デッサウまで—

新見隆 (武蔵野美術大学芸術文化学科教授・二期リゾート文化顧問)

■8/3 (月) 12:30~15:00

「人類の救いとしての共同性

—岡山大学紛争が現代に投げ掛けた問い—

能勢 伊勢雄 (写真家・展覧会企画)

「山のシュール」のお問合わせ、お申し込み

山のシュール事務局 0287-78-7833
e-mail: schule@nikiresort.jp
FAX: 0287-78-6627 アート・ビオトープ那須

BODY 身体

各日 10,000円 *料金にはランチ込み。

■8/1 (土)「大人の日」・2 (日)「こどもの日」

各日 13:00~17:00

「能から学ぶ身体技法」1日講座」



安田登 (能楽師)

こどもの日は、
発表会と怪談夏夜。
5歳以上から参加
頂けます。

CRAFT ものづくり

各日 10:30~17:30 8,000円

陶芸工房: 小松誠 (プロダクトデザイナー)

■7/30 (木)

「何でも焼きものにしてしまう —粘土のしみ込ませ」

■7/31 (金)

「鑄込みの醍醐味 —揺すって、叩いて、器作り」

■8/1 (土)

「ちょっと高度な、鑄込み講座 —おもしろ技術の総合」

*各日とも料金には、作品焼成費込み。送料別。

ガラス工房: 高橋禎彦 (ガラス作家)

■8/1 (土)・2 (日)・3 (月)

「とけたガラスに触れる

—たらず、のぼす、ふくらます—



NATURE 環境

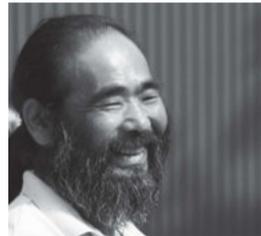
二期倶楽部庭内

■8/1 (土)・2 (日) 11:00~ 4,000円

*料金にはランチ込み。

「ツリーイングー木登り、木と遊ぶ」

内田一成 (アウトドア・ライター)



「森から学ぶ体験教室」

「ひげじい」山中秀人 (森のコンシェルジュ・二期倶楽部)

■8/1 (土) 11:00~12:30 2,000円

「畑の野菜でピザづくり」

*子供のみでは5歳以上から参加頂けます。

■8/2 (日) 15:00~17:00 2,000円

「自然サバイバルテクニク」

*子供のみでは10歳以上から参加頂けます。

最終日特別対談

■8/3 (月) 16:00~18:30

観季館大ホール 5,000円

安田登 (能楽師) × 吉田加南子 (詩人) ×
今福龍太 (文化人類学者)

最終日特別演奏

■8/3 (月) 19:30~20:00

アート・ビオトープ那須中庭 無料

特別ゲスト 劉宏軍

映画「ラストエンペラー」で坂本龍一氏とともに作曲、演奏を担当する。以来、数々の映画、ドラマ音楽を作曲、演奏している劉宏軍が、「アート・ビオトープ那須」中庭で古楽を奏でます。

WORK SHOP 小池頌子 ワークショップ レポート

はるいろ陶芸

わ類を多く制作する時期、育児に追われ制作出来ない時期を経て、と、作品の変遷を写真で追いつながら語っていただいた。力強さとやさしさ、繊細にして大胆な作品群から氏のエネルギーに触れることができた。午後のワークショップでは、小池さんの近作である「白の形」の制作技法を学び、受講生らは思い思いに土に向かっていた。初心者も経験者も楽しめるように、と小池さんが今回のワークショップの為に考案した方法は、百円ショップで手に入るようなプラスチックポウルを土台の型にしたもの。ポウルの内側に沿って紐作りの土をぐるぐる巻き、粘土を綿布に入れて作ったコテで、ポンポンと叩く。次に、花びらのような薄い土片を、形・枚数も自由に土台に貼り付ける。一つとして同じものがない作品が生み出され、参加者はそれぞれ満足の表情を浮かべていた。二日目には、全国初という、貴重な公開制作の様子を見学。みるみるうちに髷が付いて、変化していく作品に、受講生からは感動の声。質問を交えながらの、和気あいあいとした楽しい時間は、気さくな小池さんの人柄だからこそ。【A・B那須・安藤】



アート・ビオトープ那須のオープン二周年を記念する、陶芸ワークショップが開催された。今回の講師は、「Sheila」が代表作の小池頌子さん。初日午前中、スライドレクチャーでは大学卒業制作の作品から、うつ

二期倶楽部庭内観季館

一期一会

—この日かぎりのレストラン—

宮崎康典 (元大塚製薬・調理学士) × 長坂松夫 (元調理学士・調理学士) × 野崎洋光 (元調理学士・調理学士)

8/2 (日) 12:00 ランチ ¥8,000 / 18:00 ディナー ¥23,000
3人のシェフによるコラボレーション。



「結び」をテーマとしたゆるやかな空間
一生に一度だから選びたい…

GUEST HOUSE 観季館

栃木県那須郡那須町高久乙上ノ林1859
Tel: 0287-78-7577 Fax: 0287-78-7578
HP://www.novarese.co.jp / E-mail:niki@novarese.co.jp

二期倶楽部企画

宮崎康典
二期倶楽部総料理長

「料理教室
×ランチ」

7/31 (金) 11:00~13:30 参加費¥8,000

グランドハイアット香港、パークハイアット東京総料理長、六本木ヒルズクラブ取締役総括総料理長など6つのホテルを経て、二期倶楽部取締役総括総料理長に。食への追求は止まらない宮崎料理長のとっておきのテクニクを学びながら、味わう贅沢なワークショップ。

浮世絵にみる美人画の世界

この度、喜多川歌麿ゆかりの地と伝えられている栃木市で、浮世絵の「美人画」をテーマとした「歌麿とその時代展」を開催することとなりました。

歌麿は、女性の理想像を追求し、成熟した女性の色香を見事に表現し、豪華な雲母摺りの美人大首絵など数々の名作を発表、美人画の第一人者と謳われました。当初は主に吉原遊女を描き、青楼画家とまで呼ばれましたが、後は、市井の生活風俗を

克明に写し、町の人気美女や家庭の子女の生活など、あらゆる女性の姿を描きました。歌麿は清朗な美人画を得意とした鳥居清長の影響を受けながらも独特の女性像を確立し、その流れは鳥文斎栄之、栄松斎長喜らへと受け継がれ、浮世絵美人画の黄金期を築き上げました。

晩年の歌麿には退廃色の濃い官

能的な生態描写の絵が多くなり、理想主義から現実写実主義への移行を示し始めます。文化元(一八〇四)年太閤記に取材した美人画でもある歴史絵『太閤五妻洛東遊観之図』が幕府の禁忌に触れ、歌麿は手鎖、入牢を受け、文化三(一八〇六)年失意のうちに世を去ります。

しかし、歌麿亡き後も、二代歌麿をはじめ弟子たちは歌麿が築き上げた美人画の様式を継承し、他派の菊川英山も歌麿風の上品で優しい女性像を描きました。

本展では、歌麿をはじめ、鳥居清長や鳥文斎栄之、栄松斎長喜ら美人画の名手たち、歌麿の弟子たち、風景画の名手・葛飾北斎の初期(春朗落款)の数少ない美人画や歌川広重の抒情的美人画作品など、およそ60点の作品から江戸時代後期に花開いた美人画の世界を展覧いたします。



喜多川歌麿『婦人相学拾躰 かねつけ』(錦絵大判)

2009年度企画展スケジュール

「歌麿とその時代展～浮世絵にみる美人画の世界～」

2009年5月16日(土)～6月28日(日) 休館日：毎週月曜日

とちぎ蔵の街美術館

入場料：大人500円／小・中学生200円

「歌麿市民フォーラム」

2009年6月6日(土)14時～ 入場無料(先着70名)

とちぎ蔵の街観光館 2階多目的ホール

とちぎ蔵の街美術館 0282-20-8228

開館時間：午前9時～午後5時(入館は4時30分まで)

休館日：月曜日(祝日の場合は開館、翌日休館)

祝日の翌日(土曜・日曜・祝日の場合は開館)

年末年始(12月29日～1月3日) 展示替等の館内整理期間

観覧料：一般・大学・高校生300円(200円)／小・中学生100円(50円)

- * 企画展の観覧料は別途定めます
- * ()内は20名以上の団体割引料金です
- * 身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保険福祉手帳の交付を受けている方とその介護者1名、未就学児は無料
- * 土曜日は栃木市内の小・中学生は無料
- * 毎月第3日曜日は「家庭の日」のため、県内の小・中学生は無料

交通機関：電車/JR両毛線栃木駅、東武日光線栃木駅から徒歩15分
自動車/東北自動車道 栃木I.C.から10分

「那須コラム」第3回

お勧めは、那須五岳の主峰、茶臼岳山頂です。

毎年3月下旬から11月の間に運行している

「那須ロープウェイ」に乗って茶臼岳の9合目付近まで登ると、那須高原だけでなく遠く関東平野を一望することができます。また、茶臼岳をさらに50分ほど登れば、茶臼岳の噴火口を間近に見ることも。頂上付近は岩肌がむき出しで、道は整備されていませんので、歩きやすい靴を履いてお出かけください。

この他、那須高原エリアには豊富な自然、歴史名所、そしてグルメスポットが随所に点在し、車やバスでの移動に限らず、徒歩やロードバイクなどに乗って手軽に観光を楽しむことができます。山独特の風の匂いを感じながら、那須の自然に身を任せてみては如何でしょうか。

にき倶楽部1986ブティック 種田真麻里
(那須検定2級)

Event Information

<p>Art Biotop 那須 0287(78)7833</p>	<p>6月13日(土)13:00～17:00 陶芸ミニワークショップ「木、葉」 講師:安藤麻衣子 料金:6,300円(1作品の焼成費込、送別別、1ドリンク付き) ※鉢またはお皿づくりのワークショップです。</p>	<p>6月21日(日)10:30～14:00頃 アート・フェスタ那須2009「山のシュレ」プレ・イベント 「親子ツリーイング体験」—木とともに感じあい、響きあう世界 講師:内田一成(アウトドア・ライター) 料金:8,000円(大人1人、子ども1人の2名様料金・ランチ付) 対象:年齢4歳以上のお子様 ※一名追加毎4,000円プラス ※申込締切6月10日(水)</p>
	<p>7月7日(火)20:00～22:00 「観月●会 第三夜」 案内:米倉万美(イラストレーター)×momoh*(アコーディオンデュオ) 料金:2,000円 満月の夜、森を散歩し、ゲストのお話と音楽を楽しむ会です。</p>	<p>8月2日(日)・3日(月)各日10:30～ 「2009AIRプログラム・金恵貞ワークショップ」 求心力の旅—五感で描く 定員:15名 参加費:無料 材料費:3000円</p>
<p>「ホワイトリムジン屋台」 土日11:30～14:30 / 18:00～21:00営業 (不定休)</p>		
<p>GALLERY 冊 SATSU 03-3221-4220 11:00～19:00 月曜休廊</p>	<p>5月23日(土)～6月14日(日) アート・フェスタ那須2009「山のシュレ」プレ・イベント 「五感のユートピアを求めて」—シューカーからパウハウスへ、アスコナ、そしてドルナッパ。環境と芸術のコロニー(共同体)の起源を、資料でたどる。 環境と芸術のユートピアを模索した、十九世紀以来の環境的芸術家コロニーの源泉と、その実態を、資料でたどる文化史展。</p>	<p>6月20日(土)～7月7日(火) 五節句シリーズ②「七夕の室礼/松村明那(ガラス)展」 室礼三千・山本三千子氏監修による七夕の室礼(期間7月1日～7日) *7月5日(日)12:00～15:00「座学+直会」イベント 室礼三千・山本三千子氏監修のもと、年中行事の五節句を、工芸作家の作品とともに室礼します。イベントは、山本先生の座学の他、作家の器を使って、捧げものを皆で食して供養する直会を行います。</p>
	<p>関連トークイベント&交流会「夜のサロン」 6月6日(土)17時～19時 「ドイツのコロニーと芸術の現場から」 伊藤俊治(美術史家・東京芸術大学教授) 参加費:2,000円 要予約</p>	<p>8月11日(火)～9月9日(水) 五節句シリーズ③「重陽の室礼/留守玲(金工)展」 室礼三千・山本三千子氏監修による重陽の室礼(期間9月2日～9日) *9月5日(土)18:00～21:00「座学+直会」イベント</p>
	<p>7月12日(日)～26日(日) 「アート・ピオトープ那須の若手工芸作家たち展」 アート・ピオトープ那須で創作する作家たちの陶芸、ガラス作品展</p>	